

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2026.5.11-17

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（1～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

11日 月曜

コリント I



1:18 十字架のことばは、滅びる者たちには愚かであっても、救われる私たちには神の力です。

1:19 「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、悟りある者の悟りを消し去る」と書いてあるからです。

1:20 知恵ある者はどこにいるのですか。学者はどこにいるのですか。この世の論客はどこにいるのですか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたてではありませんか。

1:21 神の知恵により、この世は自分の知恵によって神を知ることがありませんでした。それゆえ神は、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救うことにされたのです。

1:22 ユダヤ人はしるしを要求し、ギリシア人は知恵を追求します。

1:23 しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えます。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かなことですが、

1:24 ユダヤ人であってもギリシア人であっても、召された者たちにとっては、神の力、神の知恵であるキリストです。

1:25 神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。

十字架のことばとは、主イエスが十字架上で話されたことばとも取れるし、または十字架についてのことば、すなわち福音と取ることもできます。いずれも神のことばであり、救いそのものについてのことばです。

神のことばは人間の知恵をはるかに超えていますから、人間がそれを評価することなどできません。ですから理解もできず高慢な者は、神のことばを

「愚かだ」と決め付けてしまうのです。

しかし、救いを受ける人は、神の全能を受け入れる用意が心にあるので、理解できなくても、それを受け入れることができます。決して否定はしないのです。

このように神のことばである聖書の真理は、この世の知恵によって検証される必要はありません。人間には検証できないのです。ですから「召された者」は、それが学者に対してであっても、幼子に対しであっても、誰に対してでも、その人が理解できるように説明する必要がありますが、あくまでも聖霊の知恵を用いて説明するのです。

伝道はやはり聖霊によるのです。誰かを救いに導きたいと願うとき、自分が説得できるだろうかと気後れしていることはないでしょうか。説得ではなく、聖霊によるのですから、主に依り頼んで一歩踏み出しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 12日 火曜

コリント I



1:26 兄弟たち、自分たちの召しのことを考えてみなさい。人間的に見れば知者は多くはなく、力ある者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。

1:27 しかし神は、知恵ある者を恥じ入らせるために、この世の愚かな者を選び、強い者を恥じ入らせるために、この世の弱い者を選びました。

1:28 有るものを無いものとするために、この世の取るに足りない者や見下されている者、すなわち無に等しい者を神は選ばれたのです。

1:29 肉なる者がだれも神の御前で誇ることがないようにするためです。

1:30 しかし、あなたがたは神によってキリスト・イエスのうちにあります。キリストは、私たちにとって神からの知恵、すなわち、義と贖いになりました。

1:31 「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりにするためです。

この世の知者と神の国の知者とは全く違います。神の国では、神を恐れ、神の前に自分は無力で罪人であり、知恵のない者であると認められる者が知者なのです。（伝道者の書など）

ですから教会では、この世の価値基準とは別の基準で、人物を見る必要があります。「神の御前でだれをも誇らせない」とありますから、あくまでも謙遜な人が用いられるということでしょう。

この世の知者であること、強さ、身分を自慢したり、頼ったりするようでは、まだ信仰が幼いということになります。「キリストは、私たちにとって神からの知恵、すなわち、義と聖と贖いになりました。」とあります。ただイエス様と交わり、そのイエス様から日々教えていただいている人が、本当の知者であり、強いものであり、身分の高い（神の子

として）者なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 13日 水曜

コリント I



2:1 兄弟たち。私があなたがたのところに行ったとき、私は、すぐれたことばや知恵を用いて神の奥義を宣べ伝えることはしませんでした。

2:2 なぜなら私は、あなたがたの間で、イエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリストのほかには、何も知るまいと決心していたからです。

2:3 あなたがたのところに行ったときの私は、弱く、恐れおののいていました。

2:4 そして、私のことばと私の宣教は、説得力のある知恵のことばによるものではなく、御霊と御力の現れによるものでした。

2:5 それは、あなたがたの信仰が、人間の知恵によらず、神の力によるものとなるためだったのです。

2:6 しかし私たちは、成熟した人たちの間では知恵を語ります。この知恵は、この世の知恵でも、この世の過ぎ去って行く支配者たちの知恵でもありません。

2:7 私たちは、奥義のうちにある、隠された神の知恵を語るのであって、その知恵は、神が私たちの栄光のために、世界の始まる前から定めておられたものです。

2:8 この知恵を、この世の支配者たちは、だれ一人知りませんでした。もし知っていたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。

2:9 しかし、このことは、「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、人の心に思い浮かんだことがないものを、神は、神を愛する者たちに備えてくださった」と書いてあるとおりでした。

パウロは自身の宣教について語ります。彼は人類史上、最も大きな働きをした宣教師です。ヨーロッパを変え、世界を変えたと言っても過言ではありません。その彼が、「すぐれたことばや知恵を用いて神の奥義を宣べ伝えることはしませんでした。」というのです。これは傾聴すべきことばです。人が救われるのは聖霊によるのですから、伝道のことばはただ聖霊によるのです。

それと同時に彼は「私たちは、成熟した人たちの間では知恵を語ります。」とも言います。彼はこの世の、すなわち神なき前提によって演繹されにしか過ぎない知恵と、神によって創造された世界の永遠の知恵が相容れないことを知っていたのです。両者は平行線です。

そこで私たちは、ノンクリスチャンの人々が考えることや感じることを推察する必要もあります。その前提として私たちは、神の知恵をしっかりとし身に付ける必要があるのです。

教会やクリスチャンの交わりはそのためにもあります。一般教養も聖書神学もどちらも必要であり、それらを聖霊様によって用いていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 14日 木曜

コリント I



2:10 それを、神は私たちに御霊によって啓示してくださいました。御霊はすべてのことを、神の深みさえも探られるからです。

2:11 人間のことは、その人のうちにある人間の霊のほかに、いったいだれが知っているでしょう。同じように、神のことは、神の霊のほかにだれも知りません。

2:12 しかし私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神からの霊を受けました。それで私たちは、神が私たちに恵みとして与えてくださったものを知るのでした。

2:13 それについて語るのに、私たちは人間の知恵によって教えられたことばではなく、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことばによって御霊のことを説明するのでした。

2:14 生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらはその人には愚かなことであり、理解することができないのです。御霊に属することは御霊によって判断するものだからです。

2:15 御霊を受けている人はすべてのことを判断しますが、その人自身はだれによっても判断されません。

2:16 「だれが主の心を知り、主に助言するというのですか。」しかし、私たちはキリストの心を持っています。

この世の知恵と神の知恵の決定的な違いは、御霊によるかどうかということです。神の知恵は人間には理解することは原理的に不可能なので、人間に悟りを与える神の恵みが必要なのです。神であられる聖霊様がその働きをしてくださいます。

ですから聖書を読むときは祈って、聖霊に心を開き、また聖書をあがめて読む必要があります。勝手に

に自分の解釈や願いをねじ込んではいけません。また自分の喜ぶところばかりを、覚えて従っていてもそれは本当の従いではありません。聖霊は人格を持っておられます。聖書を読んで神に従う人は、神という全能なる人格に全面的に信頼して従うという、決心が日々必要なのです。

「生まれながらの」肉の人ではなく、御霊の人として、聖書からの啓示をいただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





3:1 兄弟たち。私はあなたがたに、御霊に属する人に対するようには語る事ができずに、肉に属する人、キリストにある幼子に対するように語りました。

3:2 私はあなたがたには乳を飲ませ、固い食物を与えませんでした。あなたがたには、まだ無理だったからです。実は、今でもまだ無理なのです。

3:3 あなたがたは、まだ肉の人だからです。あなたがたの間にはねたみや争いがあるので、あなたがたは肉の人であり、ただの人として歩んでいることにならないでしょうか。

3:4 ある人は「私はパウロにつく」と言い、別の人は「私はアポロに」と言っているのであれば、あなたがたは、ただの人ではありませんか。

3:5 アポロとは何なのでしょう。パウロとは何なのでしょう。あなたがたが信じるために用いられた奉仕者であって、主がそれぞれに与えられたとおりのことをしたのです。

3:6 私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。

3:7 ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。

3:8 植える者と水を注ぐ者は一つとなって働き、それぞれ自分の労苦に応じて自分の報酬を受けるのです。

3:9 私たちは神のために働く同労者であり、あなたがたは神の畑、神の建物です。

3:10 私は、自分に与えられた神の恵みによって、賢い建築家のように土台を据えました。

ほかの人がその上に家を建てるのです。しかし、どのように建てるかは、それぞれが注意しなければなりません。

3:11 だれも、すでに据えられている土台以外の物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。

3:12 だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、藁で家を建てると、

3:13 それぞれの働きは明らかになります。「その日」がそれを明らみに出すのです。その日は火とともに現れ、この火が、それぞれの働きがどのようなものかを試すからです。

3:14 だれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。

3:15 だれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、その人自身は火の中をくぐるようにして助かります。

パウロはコリント教会のクリスチャンのことを「幼子」「肉に属する人」と言っていますが、その理由は、分裂分派にありました。人を傷つけることは恐ろしい罪ですが、イエスを傷つけることはそれ以上の罪と言えます。教会はキリストのからだですから、教会を傷つけることはイエスを傷つける行為です。ましてやその体を切断するようなことがあってはなりません。

ですからパウロがコリント教会の問題として第一に挙げたことが分裂、分派でした。そしてそのような重大性もわからずに、「アポロにつく」「パウロにつく」というような分派の火種をつくるような言動は、幼稚だということです。

当時もそうですが、ただでさえまだ少ないクリスチャンが、力を合わせなければ宣教どころか、この世に負けてしまうのに、一致を乱すようなことは愚かです。

パウロはそこであくまでも、主を中心に考えることを勧めます。教会のクリスチャンは神のもの

です。そして、建物のように組み合わせられ、立て上げられ、また畑のように命を育み成長して、実を結び、増加してゆくものなのです。

そこでパウロは私たちクリスチャンの人生の意味について言及します。その人生が本当に主のために生きる人生か、それともただ救われているだけの人生か、そこには大きな違いがあります。パウロはそれを「金、銀、宝石」で建てた人生か、「木、草、藁」で建てた人生かという表現をしています。

私たちは自分の毎日が、「金、銀、宝石」かどうかはわかるものです。無頓着なクリスチャンであっても、「その日」すなわち終わりの日か、または試練の日には明らかにされてしまいます。主のために生きない者の人生は最後には、空しく崩れてしまうということです。もちろん救いは損なわれないのですが、「金銀宝石」の毎日であるかどうか、自分でも考えてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 16日 土曜

コリント I



3:16 あなたがたは、自分が神の宮であり、神の御霊が自分のうちに住んでおられることを知らないのですか。

3:17 もし、だれかが神の宮を壊すなら、神がその人を滅ぼされます。神の宮は聖なるものだからです。あなたがたは、その宮です。

3:18 だれも自分を欺いてはいけません。あなたがたの中に、自分はこの世で知恵のある者だと思ふ者がいたら、知恵のある者となるために愚かになりなさい。

3:19 なぜなら、この世の知恵は神の御前では愚かだからです。「神は知恵のある者を、彼ら自身の悪巧みによって捕らえる」と書かれており、

3:20 また、「主は、知恵のある者の思い計ることがいかに空しいかを、知っておられる」とも書かれています。

3:21 ですから、だれも人間を誇ってはいけません。すべては、あなたがたのものです。

3:22 パウロであれ、アポロであれ、ケファであれ、また世界であれ、いのちであれ、死であれ、また現在のものであれ、未来のものであれ、すべてはあなたがたのもの、

3:23 あなたがたはキリストのもの、キリストは神のものです。

この世の知恵と神の知恵の決定的な違いについて、パウロは宣言します。神の知恵はあまりにも偉大なもので、人間には本来理解不可能なものです。ですから神の知恵によって生きようとする者は、この世の知恵により頼んだり、またこの世の知恵によっても自分が評価されたいと期待するのは見当違いです。この世から「愚かだ」と思われたとしても、私たちは全能なる神の知恵に信頼して生きるのです。

またここでパウロは「パウロ…アポロ…ケパ…」といった分派の問題に戻ります。分派というのは、「自分（たち）の方が正しい、すぐれている。」という主張で勢いづくからです。神様の知恵を知っている者は、自分の考えが不完全であることを知っているので、分派も分裂も起こさないのです。

コリントの人々は、自分に都合の良い主張を通し、勝手な生活をするために、都合の良い指導者に「つく」という表現をしました。「つく」とは指導を受けるという意味です。または自分を合わせるということでもあるでしょう。しかし、パウロもアポロもケパも、すなわち健全な指導者は人を従わせようなどとは考えてはいません。ただ主に従って欲しいだけです。そしてそのためにこそ、信徒に必要なものを与えるものです。すなわち彼らは「あなたがたのもの」なのです。それだけではなく、キリストのゆえに「すべてあなたがたのもの」なのですから、ちっぽけな都合によって、その大いなる恵を無駄にしないようにというのが、パウロの勧めです。

大きな神の知恵と大きな神の恵みを、自分の主張や都合によって失うことのないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





4:1 人は私たちをキリストのしもべ、神の奥義の管理者と考えるべきです。

4:2 その場合、管理者に要求されることは、忠実だと認められることです。

4:3 しかし私にとって、あなたがたにさばかれたり、あるいは人間の法廷でさばかれたりすることは、非常に小さなことです。それどころか、私は自分で自分をさばくことさえしません。

4:4 私には、やましいことは少しもありませんが、だからといって、それで義と認められているわけではありません。私をさばく方は主です。

4:5 ですから、主が来られるまでは、何についても先走ってさばいてはいけません。主は、闇に隠れたことも明るみに出し、心の中のはかりごととも明らかにされます。そのときに、神からそれぞれの人に称賛が与えられるのです。

4:6 兄弟たち。私はあなたがたのために、私自身とアポロに当てはめて、以上のことを述べてきました。それは、私たちの例から、「書かれていることを越えない」ことをあなたがたが学ぶため、そして、一方にくみし、他方に反対して思い上がることをないようにするためです。

4:7 いったいだれが、あなたをほかの人よりもすぐれていると認めるのですか。あなたには、何か、人からもらわなかったものがあるのですか。もしもらったのなら、なぜ、もらっていないかのように誇るのですか。

4:8 あなたがたは、もう満ち足りています。すでに豊かになっています。私たち抜きで王

様になっています。いっそのこと、本当に王様になっていたらよかったです。そうすれば、私たちもあなたがたとともに、王様になれたでしょうに。

分裂・分派についてパウロは、その信仰的な解決を図ろうと、話題を続けます。分派というのは神につながっているなら起きることではなく、人間につくことですから、ここで人間のリーダーシップの基本についてパウロは語ります。

コリントの人々に、心ならずも担がれてしまっているパウロやペテロなど使徒たちは、分派のためのリーダーではなく、神の奥義の管理者に過ぎないということです。それも忠実な管理者ですから、自分の主張のために誰かを味方につけて目的を達成しようなどは考えてもいないことです。

ですから「リーダーとして誰が誰よりもずばらしい、または劣っている」などと、さばくのは先走ったことなのです。人間が勝手に神のようにわかっていると勘違いして、人（ここでは指導者）に優劣をつけることはできません。

ですから私たちは、主が来られるとき的主ご自身からの称賛を期待して、（人の評価や優劣よりも）自分の使命を忠実に果たしていくものなのです。

続いてパウロは高慢な思いに囚われているコリントの人々に対して、皮肉によって気づかせようとして語っています。「他方に反対して思い上がる」とありますから、高慢こそが分裂・分派の原動力です。高慢な人は自分と違う考えを受け入れないからです。それが一致を損ないます。

「豊かになっています。」というのは、そのように思い込んでいる、またはそうであるかのように振舞っているということです。人の意見を受け入れないで、自分だけで「さばく」ことをしているからです。他人をさばく人は王のようですが、実際はそのようなコリントの人々が王になれるはずはありません。パウロは彼らに気づきを与えて、そのような書き方をしています。

以上の問題は誰にでも多かれ少なかれあるもの

です。自分の主張のために誰かを賛同者として利用すること、そのために指導者などに優劣をつけること、そして自分は信仰的に豊か分かっていると、頑なになることを、自分自身への警戒として考えてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

